

[論 文]

青年期大学生 MMPI の総合的検討(1)  
—追加尺度・諸指標を含めた基礎資料—

札幌学院大学大学院臨床心理学研究科 井手正吾

はじめに

1000名を超える薬学を専攻とする大学生のMMPIのデータについて、追加尺度ならびにプロフィール指標も含めて全体的な結果を検討したので、基礎的な資料として報告する。

MMPIの日本における基礎的な資料はまだまだ少ない。特に、追加尺度や指標などについての資料は殆どみられない。大学生年代の詳しい資料としては、伊藤(1997)と塩谷(2001)がある。伊藤は418名の看護学生と大学生のデータをもとにまとめているが、基礎尺度のみの検討である。塩谷は1182名の工科系大学生のデータを下位尺度やウィギンス内容尺度などの追加尺度を含めて検討している。しかし、塩谷は対象者が男性のみである。

臨床的にも大学生あるいは大学生年代の青年期のクライアントは少なくない。また、青年期心性は境界例などの心理的障害にも関連深いものとされる。また、MMPIは基礎尺度に加えて追加尺度等の結果を利用することにより、より細かなパーソナリティ理解を深めることができる。そのためにも、追加尺度も含めた青年期大学生のMMPIの特徴をとらえておくことは意義あることである。

対象者とMMPI施行について

対象とMMPI施行：

薬学を専攻している学生に対して、心理学関係の講義中に一つの課題としてMMPIを施行した。学生は後日その結果を基にレポートを書くこととなっている。

MMPIは冊子形式で集団施行だが、時間は本人のペースに任せるために十分な時間を用意してい

た。施行時間としては、30分をきる者も少なくなかったが、大半は1時間弱であった。遅い者でも1時間半程度であった。

以上の施行状況で、1997年から2003年までに1142名のMMPIのデータが得られた。そのうち年齢の記載に欠損があった52名のデータが除かれた。また、青年期大学生ということで26歳以上の者19名のデータも除き、さらに？回答が30を超えた2名のデータを除き、最終的に1069名のデータを対象とした。F尺度やK尺度による対象除外は、あえて行っていない。これは臨床や教育場面でみられるMMPIとして、そのような結果を示すもの、特にF尺度が極度に上昇したMMPIプロフィールは、少なくないからである。今回は行っていないが、そのような結果を示す健常者の検討は必要であり、意義あるものとするからである。

1069名の内訳は、男性494名(平均年齢21.2歳、SD1.37)、女性575名(平均年齢20.9歳、SD1.26)であった。なお、学生は全員、北海道都市部在住であり、出身は様々であるが大半は北海道である。MMPIのデータは、様々な尺度や指標等を算出できるPCソフトウェアのMMPI統合処理ソフト・MiW(井手・田形, 2001; 井手, 2009)の最新版で処理された。

結果と考察

結果は、男女別ならびに男女総合について、それぞれ平均、標準尺度、最大値、最小値を示す。尺度についてはT得点の結果である。また、基礎尺度や諸指標も含めて123の結果をMMPIでは比較的なじみのある記号・略号で提示する(個々の尺度等についての詳細は文献を参照して欲しいが、付表1-1から付表1-3に尺度名等一覧も

**Table 1**  
**Result of Basic Scales**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
?	46.8	4.75	64	44	47.6	5.28	64	44	47.2	5.06	64	44
L	46.4	8.07	83	32	44.8	8.40	79	29	45.5	8.29	83	29
F	51.8	10.32	106	33	52.3	12.41	123	32	52.1	11.50	123	32
K	49.1	9.33	76	23	48.6	9.90	75	23	48.9	9.65	76	23
Hs	52.3	10.24	88	28	52.6	9.36	94	30	52.5	9.77	94	28
D	53.1	11.72	89	29	51.9	11.42	94	30	52.5	11.58	94	29
Hy	52.7	10.17	85	30	52.0	8.92	78	29	52.3	9.53	85	29
Pd	51.1	10.15	90	27	52.1	10.04	94	23	51.6	10.10	94	23
Mf	52.2	9.48	82	22	51.5	10.03	86	24	51.8	9.78	86	22
Pa	55.5	10.79	99	33	55.1	10.84	100	29	55.3	10.82	100	29
Pt	55.9	11.61	95	28	54.1	11.84	97	27	54.9	11.77	97	27
Sc	54.4	11.72	104	31	52.9	12.34	116	26	53.6	12.08	116	26
Ma	51.3	10.17	84	28	51.2	10.81	99	21	51.3	10.52	99	21
Si	51.6	10.35	78	28	51.0	11.56	83	25	51.3	11.02	83	25

**Table 2**  
**Result of famous Additional Scales**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
A	52.5	10.34	78	36	51.9	11.02	84	34	52.2	10.72	84	34
R	49.4	9.77	82	20	47.3	9.01	74	20	48.3	9.42	82	20
MAS	54.0	11.11	85	34	54.0	11.47	89	31	54.0	11.31	89	31
Es	49.2	11.32	73	11	53.9	11.25	78	15	51.7	11.52	78	11
Lb	52.3	9.71	80	23	50.8	9.75	85	22	51.5	9.76	85	22
Ca	53.7	10.51	81	31	52.5	11.09	89	29	53.0	10.84	89	29
Dy	53.2	10.82	83	30	51.3	10.79	78	29	52.2	10.84	83	29
Do	48.6	9.94	76	18	51.0	9.92	75	22	49.9	10.00	76	18
Re	48.5	8.83	68	22	49.0	9.68	73	17	48.8	9.30	73	17
Pr	49.4	9.74	80	28	46.6	9.85	80	25	47.9	9.90	80	25
St	49.4	10.76	84	15	52.1	10.17	78	24	50.8	10.53	84	15
Cn	54.8	9.35	77	33	56.0	9.80	91	31	55.5	9.62	91	31
Mt	53.9	10.97	85	33	53.3	11.93	93	32	53.6	11.50	93	32
MAC	47.7	9.18	79	20	46.2	9.30	78	18	46.9	9.28	79	18
O-H	49.1	10.53	78	16	46.4	9.33	82	21	47.6	10.00	82	16

**Table 3-1**  
**Result of Subscales of Clinical Scales**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
D-O	55.0	12.35	94	33	53.1	11.54	96	32	54.0	11.96	96	32
D-S	47.4	9.55	70	20	48.1	9.68	72	10	47.7	9.62	72	10
D1	53.9	12.11	94	33	52.1	12.20	98	30	52.9	12.19	98	30
D2	49.7	11.22	82	22	48.7	11.94	88	14	49.2	11.62	88	14
D3	52.1	12.16	120	29	53.0	11.85	103	29	52.6	12.00	120	29
D4	53.6	12.37	100	38	50.1	11.22	100	37	51.7	11.90	100	37
D5	54.8	11.28	84	38	54.5	11.62	88	36	54.6	11.46	88	36
Hy-O	55.0	11.84	99	35	53.0	10.92	98	32	54.0	11.40	99	32
Hy-S	48.9	9.42	74	23	49.5	9.44	73	23	49.2	9.44	74	23
Ad	54.6	11.68	98	36	53.3	11.01	99	35	53.9	11.34	99	35
Dn	48.6	9.44	72	23	49.3	9.65	74	25	48.9	9.56	74	23
Hy1	47.0	10.16	64	29	47.9	10.30	64	29	47.5	10.24	64	29
Hy2	49.6	9.40	72	23	49.3	9.86	71	22	49.4	9.65	72	22
Hy3	55.5	12.17	99	40	52.3	10.67	95	39	53.8	11.50	99	39
Hy4	52.6	11.06	90	37	52.9	11.28	96	35	52.8	11.18	96	35
Hy5	49.5	9.50	76	27	50.2	10.19	77	26	49.9	9.88	77	26
Pd-O	52.4	10.38	92	33	52.9	10.68	98	35	52.7	10.55	98	33
Pd-S	49.4	10.01	76	26	51.1	9.85	83	21	50.3	9.96	83	21
Pd1	51.7	10.96	93	39	52.2	10.65	101	39	51.9	10.80	101	39
Pd2	48.9	9.43	77	27	50.8	9.92	84	30	49.9	9.75	84	27
Pd3	48.0	10.56	68	21	48.2	10.43	70	23	48.1	10.49	70	21
Pd4a	54.5	10.91	93	37	52.8	10.36	94	32	53.6	10.65	94	32
Pd4b	53.0	12.14	94	35	52.2	11.99	93	34	52.5	12.07	94	34
Mf1	55.5	11.60	93	32	54.4	11.44	89	26	54.9	11.53	93	26
Mf2	47.7	8.87	77	33	45.7	10.55	71	20	46.6	9.85	77	20
Mf3	48.0	8.75	68	28	43.1	11.33	60	-1	45.4	10.52	68	-1
Mf4	47.9	9.52	74	30	46.4	11.09	72	24	47.1	10.42	74	24
Mf5	48.2	9.42	66	26	48.3	9.43	74	26	48.3	9.42	74	26
Mf6	49.9	9.97	75	26	50.8	9.62	75	32	50.4	9.79	75	26

Table 3-2  
Result of Subscales of Clinical Scales

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
Pa-O	53.5	11.44	109	41	52.1	11.65	104	39	52.7	11.58	109	39
Pa-S	54.3	9.32	82	31	55.0	9.44	82	27	54.7	9.39	82	27
Pa1	52.5	10.49	100	42	51.2	10.35	96	41	51.8	10.43	100	41
Pa2	55.1	11.60	94	38	52.8	10.98	96	38	53.9	11.33	96	38
Pa3	52.4	9.20	71	31	54.3	9.44	71	26	53.4	9.38	71	26
Sc1a	54.8	12.72	113	40	52.9	11.93	110	40	53.8	12.34	113	40
Sc1b	53.0	11.19	91	37	51.5	11.19	100	36	52.2	11.22	100	36
Sc2a	52.5	12.62	106	41	50.9	12.16	100	41	51.6	12.40	106	41
Sc2b	53.4	11.26	87	36	52.4	12.62	103	35	52.9	12.02	103	35
Sc2c	53.6	11.84	103	42	54.7	11.93	106	43	54.2	11.90	106	42
Sc3	52.6	12.17	112	41	51.2	11.77	101	40	51.8	11.97	112	40
Ma-O	53.5	10.57	92	34	54.7	11.56	104	32	54.2	11.13	104	32
Ma-S	48.4	9.86	76	21	46.8	9.91	85	19	47.5	9.92	85	19
Ma1	51.9	9.43	77	33	50.2	10.34	80	31	51.0	9.97	80	31
Ma2	53.3	9.59	78	26	55.1	11.19	84	32	54.3	10.52	84	26
Ma3	47.0	10.63	74	25	46.3	10.77	80	25	46.6	10.71	80	25
Ma4	49.4	9.90	84	35	48.8	10.52	84	36	49.1	10.24	84	35
Si1	53.0	10.10	79	34	53.0	10.66	77	32	53.0	10.40	79	32
Si2	49.0	10.91	79	29	48.5	11.12	79	27	48.8	11.03	79	27
Si3	48.2	9.76	76	27	47.4	10.19	73	23	47.8	10.00	76	23
Si4	51.5	10.81	77	33	50.7	10.73	77	28	51.1	10.77	77	28
Si5	50.3	9.71	75	27	48.6	10.25	76	25	49.4	10.04	76	25
Si6	55.1	11.15	87	36	54.7	11.14	90	36	54.9	11.14	90	36

参考にされたい)。結果については、尺度単独ではなく基礎尺度で重視されるパターン（相対的な布置）を重視してみていく。

#### 基礎尺度：

14の基礎尺度の結果を Table 1に示す。男女共通して、妥当性尺度は軽い山型、第6, 7尺度が55前後で比較的高くなっている。第8尺度も高い方である。第4, 9尺度は高くはない。男女で違いがあるところは、第4尺度が男性では一番低くなっており、女性で一番低い尺度は第0尺度であった。男性で一番高い尺度は第7尺度で、女性では第6尺度となっている。男性は第1, 2, 3尺度がわずかながら逆Vのパターンになっていた。

#### 代表的追加尺度：

比較的古くから使用頻度が高い15の追加尺度を代表的追加尺度とし、その結果は Table 2の通りであった。これらの尺度は、日本版 MMPI（日本 MMPI 研究会, 1973）ならびに新日本版 MMPI（MMPI 新日本版研究会, 1993）のテキストでも取りあげられ公刊の採点盤で結果が算出される。また、Graham (1987), Greene (1980), Friedman, Webb & Lewak (1989/1999) 等の MMPI の代表的なテキストでも取りあげられている。男女ともに、MAS, Mt, Cn が高く、R, MAC がやや低いパターンになっている。しかし、Es, St, Do は男女差が大きく、いずれも女性が高くなっている。女性の方が、自信や向上心などがあると好ましい方向になっているが、薬学専攻の男女の特徴なのだろうか。

#### 下位尺度：

基礎尺度の結果を検討するために多くの下位尺度が作成されている。比較的好く使われている Harris & Lingo (第2, 3, 4, 6, 8, 9尺度), Serkownek (第5, 0尺度), Wiener & Harmon (第2, 3, 4, 6, 9尺度の明瞭・隠蔽尺度), Little & Fisher (第3尺度の Dn, Ad) を取り上げた。これらについては Graham (1972/1985), 村上・村上 (1992), Friedman et al. (1989/1999) 等に詳しい。下位尺度の結果を Table 3-1と Table 3-2に示す。

第2 (D) 尺度では、D-O が高く D-S は低く

なり、D1, D3, D5が高くなるというパターンがみられ、D4は男女差があり男性は高くなっている。第3 (Hy) 尺度では、Hy-O, Ad が高くなり、Hy1がやや低く、Hy3, Hy4がやや高くなるパターンとなっていた。第4 (Pd) 尺度においては、Pd3が低く Pd4a, Pd4b がやや高くなるパターンとなっていた。第5 (Mf) 尺度では、Mf1が高く他はやや低いパターンであるが、Mf1は女性でかなり低くなっている。

第6 (Pa) 尺度は、男女ともに Pd-S が Pa-O より高くなっていたが、男性は Pa2が女性 Pa3が高いパターンであった。第8 (Sc) 尺度は、Sc1a と Sc2c がやや高くなるパターンだが、男性が Sc2c を除くと全体的に高くなっている。第9 (Ma) 尺度では、Ma-O が高く Ma-S が低くなり、Ma2が高く Ma3が低くなっていた。第0 (Si) 尺度においては、Si1と Si6が高くなり、Si3がやや低いパターンとなっていた。

#### ウィギンス内容尺度：

ウィギンス内容尺度は、13の尺度で構成される論理的手法で作られた代表的なセット尺度であり、いままでにあげた殆どのテキストで取りあげられている。ウィギンス内容尺度の結果は Table 4の通りである。男女ともに、SOC, DEP, PSY, HEA がやや高く、REL, FEM が低くなっているパターンである。しかし、女性の FEM が40近い値で極端に低くなっている。HEA はやや高いが、ORG は高くなってないのは注目してもよいだろう。

#### TSC クラスター尺度、他セット尺度：

7つの尺度からなる TSC (Tryan, Stein & Chu) クラスター尺度、やはり7つの尺度から構成されるインディアナ論理尺度、3つの尺度からなるフリードマン重複尺度の結果を Table 5に示す。TSC クラスター尺度は殆どのテキストでとりあげられている。インディアナ論理尺度は Levitt & Gotts (1995) が詳しく取りあげている。フリードマン重複尺度は、Friedman et al. (1989/1999) が取りあげている。

TSC クラスター尺度では、I (tsc) が高く、S (tsc) 以外がやや高くなっている。男女ともに、基礎尺度で第6尺度が高くなっているのに猶疑心

**Table 4**  
**Result of Wiggins Content Scales**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
SOC (wig)	53.1	10.59	81	31	52.9	11.65	82	32	53.0	11.17	82	31
DEP (wig)	53.3	10.84	90	37	51.8	11.71	93	34	52.5	11.34	93	34
FEM (wig)	47.0	8.58	72	21	40.9	10.63	72	10	43.7	10.21	72	10
MOR (wig)	52.5	10.56	81	35	51.2	10.90	78	31	51.8	10.76	81	31
REL (wig)	45.6	9.08	81	30	43.7	9.00	71	23	44.6	9.08	81	23
AUT (wig)	49.8	9.47	75	25	48.9	9.49	80	29	49.3	9.49	80	25
PSY (wig)	52.6	11.41	108	37	51.8	11.26	107	36	52.2	11.34	108	36
ORG (wig)	50.1	10.74	94	35	48.7	10.39	97	34	49.3	10.58	97	34
FAM (wig)	51.8	10.95	99	40	51.3	9.97	95	39	51.5	10.44	99	39
HOS (wig)	50.5	10.28	82	30	51.4	10.17	84	32	51.0	10.23	84	30
PHO (wig)	49.7	11.05	87	31	47.6	10.20	86	26	48.5	10.65	87	26
HYP (wig)	50.3	9.48	77	30	50.9	9.70	83	29	50.6	9.60	83	29
HEA (wig)	53.3	10.94	88	35	53.8	10.50	90	35	53.6	10.71	90	35

**Table 5**  
**Result of Some Set Scales (tsc etc.)**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
I (tsc)	54.2	11.04	78	32	54.1	11.18	82	31	54.1	11.11	82	31
B (tsc)	52.6	10.92	97	37	52.8	10.61	99	37	52.7	10.75	99	37
S (tsc)	50.2	9.41	78	28	49.0	9.81	80	29	49.5	9.65	80	28
D (tsc)	52.6	11.21	85	36	51.7	11.62	88	34	52.1	11.44	88	34
R (tsc)	51.6	10.05	79	34	52.2	10.72	83	34	51.9	10.42	83	34
A (tsc)	53.6	10.67	89	33	53.0	10.90	91	33	53.2	10.80	91	33
T (tsc)	52.4	11.70	90	33	50.6	11.19	88	31	51.4	11.46	90	31
I-De	53.4	10.58	80	31	53.6	10.45	77	29	53.5	10.51	80	29
I-Do	47.5	10.50	73	20	48.1	9.72	83	23	47.8	10.09	83	20
I-DS	51.6	12.20	117	44	51.2	11.84	108	43	51.4	12.01	117	43
I-OC	52.3	10.13	79	36	51.3	10.27	84	36	51.7	10.22	84	36
I-SC	54.2	12.04	91	34	52.8	10.85	85	32	53.5	11.44	91	32
I-RD	51.8	11.05	136	44	50.8	10.32	112	44	51.2	10.68	136	44
I-SP	53.4	9.86	85	33	50.0	11.61	114	35	51.6	10.97	114	33
POS	54.4	11.86	110	39	53.4	11.54	99	39	53.8	11.70	110	39
NOS	54.9	12.04	102	35	53.5	10.61	88	34	54.1	11.32	102	34
MOS	54.3	12.11	102	35	54.1	12.84	104	30	54.2	12.51	104	30

**Table 6**  
**Result of Various Additional Scales**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
AStvn [f]	47.2	10.34	75	11	48.3	11.32	86	4	47.8	10.89	86	4
5C	50.9	9.08	73	26	50.4	9.07	70	24	50.6	9.08	73	24
E/Cy	50.5	9.80	88	31	49.5	10.56	86	30	50.0	10.23	88	30
Ho	50.7	9.52	78	30	50.2	10.49	85	28	50.5	10.06	85	28
Pe	50.3	10.12	89	27	49.3	11.32	91	25	49.7	10.79	91	25
S +	51.2	9.70	93	39	50.6	11.02	95	38	50.9	10.44	95	38
WA	51.3	10.08	81	31	49.1	10.37	84	31	50.1	10.30	84	31
N	51.8	10.47	86	26	50.6	10.43	78	26	51.2	10.46	86	26
Ds-r	53.2	10.46	97	36	51.8	10.91	101	33	52.5	10.73	101	33
As	44.7	9.50	66	16	42.7	9.91	67	12	43.7	9.77	67	12
R-S	54.0	10.74	84	33	53.2	11.29	89	30	53.6	11.05	89	30
MAD	53.7	10.74	83	36	52.1	11.24	82	32	52.8	11.04	83	32
Ts	55.6	11.59	87	36	54.9	12.27	96	35	55.2	11.97	96	35
PK	55.0	10.99	94	36	54.3	11.72	98	37	54.6	11.40	98	36
Ie	52.1	9.44	75	20	53.0	9.59	74	21	52.6	9.53	75	20
Tp	47.0	10.17	66	17	48.2	10.98	70	15	47.7	10.63	70	15

**Table 7**  
**Result of Various Indices**

	male (n =494)				female (n =575)				total (n =1069)			
	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min	mean	SD	max	min
CLS	2.2	1.04	6	0	2.2	1.08	6	0	2.2	1.06	6	0
disF-K	-7.2	7.32	18	-23	-8.7	6.98	15	-23	-8.0	7.18	18	-23
AI	56.7	22.33	121	-2.7	53.6	22.51	127	8	55.1	22.48	127	-2.7
IR	1.05	0.16	1.68	0.69	1.03	0.15	1.59	0.69	1.04	0.16	1.68	0.69
GI	47.8	15.05	110	9	46.8	14.59	105	4	47.3	14.81	110	4
Tper	0.41	0.07	0.62	0.2	0.39	0.06	0.62	0.25	0.40	0.06	0.62	0.2
MeanC10	53.0	6.97	77.8	38.6	52.5	6.55	83	37.3	52.7	6.75	83	37.3
MeanC08	53.3	7.72	83	36.6	52.8	7.57	86	35.4	53.0	7.64	86	35.4
Abv70C10	0.8	1.46	8	0	0.7	1.34	9	0	0.7	1.40	9	0
Abv70C08	0.7	1.37	8	0	0.6	1.20	8	0	0.6	1.28	8	0
TotalT	224.1	36.22	341	109	216.7	32.89	339	137	220.1	34.66	341	109
TotalF	324.8	36.18	441	208	331.8	32.68	409	211	328.6	34.52	441	208

に関連する S (tsc) が上昇していないことは興味深いところである。インディアナ論理尺度においては、I-De が高く、I-Do が低い I-SC がやや高いというパターンとなっている。I-SP は男性が高くなっている。フリードマン重複尺度は、男女ともにすべて55近い高い値となっていた。代表的追加尺度の支配性に関する Do とインディアナ論理尺度の I-De は、女性の結果に違いが見られている。

#### 他の追加尺度 (16尺度) :

代表的追加尺度ほど多用はされていないが、テキストによって詳しく取り扱われていたり、日本での資料がみられる16の追加尺度の結果を Table 6に示す。16の尺度は、Levitt & Gotts (1995) が有用な追加尺度としてとりあげている Astvn (自己主張) 尺度や WA (作業態度) 尺度等の7尺度、ならびに村上・村上 (1992) などの資料がある9尺度である。

Levitt & Gotts のとりあげている7尺度では、Astvn がやや低く他は50前後のパターンとなっていた。WA は僅かながら男性は高く、女性は低くなっているようだ。残りの9尺度は、As がかなり低く、Ds-r, MAD, Ts, PK が高く、Tp がやや低いパターンとなっていた。臨床的にも重要な自殺や PTSD に絡む尺度である Ts や PK が高くなっているのは目をひくが、これは青年期的心性なのか、あるいは基礎尺度の F 尺度の上昇に伴うものかは更なる慎重な検討が必要であろう。

#### 諸指標 :

MMPI の12の諸指標の結果を Table 7に示す。これらの指標は田中 (1990) が取りあげたもので、井手 (2007) が新日本版の標準データを出している。標準データと比較してゴールドバーグ指標 (GI) がやや低くなり、T 得点の平均 (MeanC10, MeanC08) が高く、70 をこえる臨床尺度数 (Abv70C10, Abv70C08), CLS, F-K 指標 (disF-K), AI, IR, 「当てはまる」反応率 (Tper) がやや高くなっていた。Tper に関連して、「当てはまる」反応数 (TotalT) はやや高く、「当てはまらない」反応数 (TotalF) はやや低い数値となっていた。

#### 総合的考察と今後の課題

本報告の大学生の結果を MMPI (新日本版) としての大学生の資料である伊藤 (1997) や塩谷 (2001) と簡単に比較してみる。3つを比較できる基礎尺度では、大きくみれば妥当性尺度は軽い逆V型をして、第6, 7尺度がやや高いパターンであり、高校生以前の青年期集団 (田中, 1997; Pancoast & Archer, 1988) ほどの大きな上昇はない。いずれも、Pancoast & Archer (1992) や Butcher, Graham, Dahlstrom & Bowman (1990) などのアメリカで大学生、青年期に特徴とされる第4尺度と第9尺度の大きな上昇は見られなかった。そのような点では類似しており、日本の青年期大学生のひとつのパターンなのかもしれない。細かくみるとかなり違いはみられる。伊藤の女性群は、第4尺度、第9尺度がやや高くなっており、全体的に穏やかなプロフィールである。また第1, 2, 3尺度は、塩谷と本報告の男性群では逆V型になっているが、伊藤 (1997) の男性群は3尺度が最も高くなっている。塩谷 (2001) のT得点の高低の幅は大きくなっている等の違いはある。

基礎尺度以外では、男性の場合、塩谷 (2001) と本報告の代表的な追加尺度、下位尺度が比較できる。高低の範囲の違いはあるが、布置パターンは殆どの尺度で類似していた (基礎尺度も含めたこれらの布置パターンは青年期心性の不安定さと健全群である健康さを示すものとも考えることはできようが、本報告は基礎資料の提供ということで、これ以上の心理的解釈は控える)。青年期男性健全者の特徴とってよいのか、理系男性大学生の特徴と考えた方がよいのか、これは更なる資料を加えて検討しなければならないが、興味深い結果である。また、基礎尺度に限らず、追加尺度においても相対的な布置パターンでとらえることが MMPI では重要であることを改めて認識させるものである。

今回、1069名の全体的な結果を報告したが、不適応感が強い大学生と考えられる F 尺度が極度上昇した者や防衛的態度が強いとみることもできる K 尺度上昇者を抽出して結果を検討することも、そのような結果を出しやすい臨床症例の理解のためにも必要であろう。また、今回 MMPI の

主要結果である尺度と指標を検討したが、550の項目別の是認率、まだ危機項目、などについての検討も、総合的なMMPIの臨床的活用により役立つものと思われる。ロールシャッハと並んで臨床的に総合的なパーソナリティ理解に有用であるにもかかわらず、日本においての使用頻度が未だ低いままのMMPIの発展のためにも、それらのことも今後の課題として取り組みたい。

## 要 約

薬学を専攻する大学生1069名(男性496名:女性575名)のMMPIについて総計123の結果を算出し、青年期大学生の基礎資料として報告した。基礎尺度、代表的追加尺度、下位尺度、ウィギンス内容尺度、TSCクラスター尺度他セット尺度、他の追加尺度、諸指標について、結果を相対的布置を重視した検討を行った。

基礎尺度ではL、F、K尺度が逆V型となり、第6、7尺度が上昇する:第9尺度の下位尺度ではMa-Oが高くMa-Sが低くなり、Ma2が高くMa3が低い:フリードマン重複尺度は3つの尺度とも上昇:その他の尺度ではTs、PKが高くTpが低い等のパターンがみられた。また、代表的な追加尺度ではEs、Doが女性では高いが男性では低い:ウィギンス内容尺度でFEMが女性が極端に低い:インディアナ論理尺度ではI-SPは男性で高くなる等の男女差もみられた。

F尺度やK尺度による群分けでの検討や是認率の分析などが今後の課題としてあげられた。

## 文 献

- Butcher, J. N., Graham, J. R., Dahlstrom, W. G., & Bowman, E. (1990): The MMPI-2 with College Student. *Journal of Personality Assessment*, 54, 1-15.
- Friedman, A. F., Webb, J. T., & Lewak, R. (1989): *Psychological assessment with the MMPI*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates. (フリードマン, A. F. ・ ウェブ, J. T. ・ ルヴァク, R. (1999) : MMPI 新日本版研究会 (訳) : MMPI による心理査定 三京房)
- Graham, J. R. (1977): *The MMPI: A Practical Guide*. New York: Oxford University Press. (グレイアム, J. R. 田中富士夫 (訳) (1985) : MMPI 臨床解釈の実際 三京房)
- Graham, J. R. (1987): *The MMPI: A Practical Guid. Second Edition*. Oxford University Press / New York Oxford.
- Greene, R. L. (1980): *The MMPI: an interpretive manual*. New York: Grune & Stratton.
- 井手正吾 (2007) : プロフィール指標に関する基礎資料 MMPI 研究・臨床情報交換誌, 17, 40-46.
- 井手正吾 (2009) : MMPI におけるコンピュータ利用—Project MI and MiW— MMPI 研究・臨床情報交換誌, 19, 54-56.
- 井手正吾・田形修一 (2001) : MMPI におけるコンピュータ援用—MMPI コンピュータ支援システム MI とプログラムソフト MiW—, 中京大学心理学部紀要, 1, 91-102.
- 伊藤章代 (1997) : 大学生年代のプロフィール特徴 MMPI 新日本版研究会 (編) MMPI 新日本版の標準化研究 三京房 pp.231-247.
- Levitt, E. E., & Gots, E. E. (1995): *The clinical application of MMPI special scales*. 2nd ed. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- MMPI 新日本版研究会 (編) (1997) : MMPI 新日本版の標準化研究 三京房.
- MMPI 新日本版研究会 (編) (1993) : 新日本版 MMPI マニュアル 三京房.
- 村上宣寛・村上千恵子 (1992) : コンピュータ心理診断法—MINI, MMPI-1 自動診断システムへの招待— 学芸図書株式会社.
- 日本 MMPI 研究会 (編) (1973) : 日本版 MMPI ・ハンドブック 増補版 三京房
- 塩谷亨 (2001) : 特定集団を対象とした MMPI 新日本版の諸変数の分析 平成11年度~平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書.
- 田中富士夫 (1990) : 質問紙法 土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・木村敏 (編) 異常心理学講座 8 pp.17-69. みすず書房
- 田中富士夫 (1997) : 基礎尺度の暫定的な青年期基準 MMPI 新日本版研究会 (編) MMPI 新日本版の標準化研究 三京房 pp.231-247.

Pancoast, D. L., & Archer, R. P. (1988): MMPI Adolescent Norms: Patterns and Trends Across 4 Decades. *Journal of Personality Assessment*, 1988, 52, 691-706.

Pancoast, D. L., & Archer, R. P. (1992): MMPI Response Patterns of College Students: Comparisons to Adolescents and Adults. *Journal of Clinical Psychology*, 48, 47-53.

付表 1-1  
尺度名等一覧(1)

尺度記号	尺度名	尺度記号	尺度名	尺度記号	尺度名
<u>基礎尺度</u>		<u>TSC クラスター尺度</u>		<u>頻用特殊尺度</u>	
?	疑問	I (tsc)	社会的内向	A	不安
L	虚偽	B (tsc)	身体症状	R	抑圧
F	頻度	S (tsc)	猜疑心・不信心	MAS	顕在性不安
K	修正	D (tsc)	抑うつ・無感動	Es	自我強度
		R (tsc)	憤慨・攻撃	Lb	腰痛(機能的)
Hs	心気症	A (tsc)	自閉性・分裂的思考	Ca	頭頂前頭葉損傷
D	抑うつ	T (tsc)	緊張・心労・恐怖	Dy	依存
Hy	ヒステリー			Do	支配
Pd	精神病質的偏倚	<u>インディアナ論理尺度</u>		Re	社会的責任
Mf	男性性・女性性	I-De	依存性	Pr	偏見
Pa	パラノイア	I-Do	支配性	St	社会的地位
Pt	神経衰弱	I-DS	解離症状	Cn	統制
Sc	分裂病	I-OC	強迫性	Mt	情緒不適応(大学生)
Ma	軽そう	I-SC	自己概念	MAC	アルコール中毒
Si	社会的内向	I-RD	重度現実歪曲	O-H	敵意の過剰統制
		I-SP	性的問題		
<u>ウィギンス内容尺度</u>		<u>その他の特殊尺度</u>		<u>フリードマン重複尺度</u>	
SOC (wig)	社会的不適応	AStvn [f]	自己主張	POS	精神病重複
DEP (wig)	抑うつ	5C	因習性	NOS	神経症重複
FEM (wig)	女性的興味	E/Cy	冷笑性・皮肉癖	MOS	不適応重複
MOR (wig)	意気消沈				
REL (wig)	信仰上の根本主義	Ho	敵意	N	正常性
AUT (wig)	権威葛藤	Pe	小児性愛	Ds-r	偽装
PSY (wig)	精神病性	St	極度な猜疑心	As	アレキシサイミア
ORG (wig)	器質的症候	WA	作業態度	R-S	抑圧-鋭敏化
FAM (wig)	家庭問題			MAD	顕在性不安-防衛
HOS (wig)	顕在性敵意			Ts	自殺徴候
PHO (wig)	恐怖症			PK	心的外傷 PTSD
HYP (wig)	軽躁病			Ie	知的効率尺度
HEA (wig)	不健康			Tp	教育能力尺度

付表 1-2  
尺度名等一覧 (2 : 下位尺度)

記号	尺度名	記号	尺度名	記号	尺度名
<u>2(D)</u>		<u>4(Pd)</u>		<u>8(Sc)</u>	
D-O	D (明瞭)	Pd-O	Pd (明瞭)	Sc1a	社会的疎外
D-S	D (隠微)	Pd-S	Pd (隠微)	Sc1b	情緒的疎外
				Sc2a	自我統制欠如, 認知面
D1	主観的抑うつ	Pd1	家庭の不和	Sc2b	自我統制欠如, 能動面
D2	精神運動性遅延	Pd2	権威問題	Sc2c	自我統制欠如, 抑制困難
D3	身体的不調	Pd3	社会的平静	Sc3	奇妙な感覚経験
D4	精神的沈滞	Pd4a	社会的疎外		
D5	病的熟考	Pd4b	自己疎外	<u>9(Ma)</u>	
				Ma-O	Ma (明瞭)
<u>3(Hy)</u>		<u>5(Mf)</u>		Ma-S	Ma (隠微)
Hy-O	Hy (明瞭)	Mf1	自己愛・過敏性	Ma1	道徳欠如
Hy-S	Hy (隠微)	Mf2	典型的女性興味	Ma2	精神運動促進
		Mf3	典型的男性興味の否認	Ma3	平静
Ad	症状の自認	Mf4	異性愛への不快・受動性	Ma4	自我膨張
Dn	症状の否認	Mf5	内省的・批判的		
		Mf6	社会的隠遁	<u>0(Si)</u>	
Hy1	社会不安の否認			Si1	劣等・個人的不快
Hy2	愛情欲求	<u>6(Pa)</u>		Si2	他人への不快
Hy3	疲労・不快	Pa-O	Pa (明瞭)	Si3	真面目・個人的頑固
Hy4	身体愁訴	Pa-S	Pa (隠微)	Si4	過敏
Hy5	攻撃抑制	Pa1	被害観念	Si5	不信
		Pa2	神経過敏	Si6	身体懸念
		Pa3	無邪気・純朴性		

付表 1-3  
尺度名等一覧 (3 : 諸指標)

記号	指標名	記号	指標名
MeanC10	臨床10尺度T得点平均	CLS	不注意尺度
MeanC08	狭義臨床8尺度(5, 0尺度除く)T得点平均	disF-K	F マイナス K 指標
Abv70C10	臨床尺度T得点70以上尺度数	AI	不安指標
Abv70C08	狭義臨床尺度T得点70以上尺度数	IR	内面化指標
TotalT	「当てはまる」反応総数	GI	ゴールドバーグ指標
TotalF	「当てはまらない」反応総数	Tper	「当てはまる」反応率